

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		特定非営利活動法人だいご北田気事業所				公表日 令和7年4月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		窓際に学習机を並べて、活動スペースを広くとるようにしている。	照明にも注意して、極端に暗くなったり陰になつたりしないように配慮する。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			送迎時の職員の配置を工夫する。小規模なため、職員が休みの時に配置に苦労することがある。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		テープなどで動線を視覚的にわかりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			個別活動と集団活動が並列的に行われる場合の、活動場所の構造化を工夫する。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		声や音が気になるなどの子どもには、個別に過ごすことができる空間を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2	実行と改善については、職員間の打ち合わせと反省を繰り返してこなうことで、スムーズに取り組めている。	目標設定に関わる職員が固定化している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		シートや聞き取りにより把握している。	聞き取りをする機会を多く持つようとする。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		情報交換を密にしている。	連絡ノートの活用を進めるようする。（担当者を決めるなど）
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		外部の評価（自立支援協議会委員）を受ける機会を設ける。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		リモート研修に積極的に参加するようしている。回覧などで個々に学習している。	短時間でできるように、小テーマごとに勉強会を開催する。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			職員間で、内容を常に確認し共有する。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		様々な情報をえることを心がけている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		個別支援計画を作成するときは、職員間で意見やアイデアを出し合うようしている。	日ごろの様子なども細かく取り入れるようにする。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		記録などを通して、計画に沿った支援ができるか、職員間で話し合いをしながらすすめている。	日々検証する。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		4		日々の記録と合わせてアセスメントを行うようする。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	一人ひとりの環境を考慮して作成している。	第一に本人支援を考えながら、家族支援、移行支援も支援内容を設定する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		担当者を中心にして、児発管も参加しながら行っている。	

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節の行事や学校行事、気候、体調などを考慮して活動内容を工夫している。	誰もが参加できるものを多く用意する。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		一人ひとりの特性に合わせて、個別活動と集団活動の比率を考えて支援している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2		パート職員との密な話し合いができるように工夫する。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	3		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		担当者を決めて毎日記録を取り、支援方法や内容の改善に努めている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	日々の記録も重要視し、職員の気になることも見直しの材料とする。モニタリングを多く行う。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		個別活動や集団活動に意識的に組み合わせて行っている。	定期的に検証する。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		活動内容を強制しないようにしている。細かいところまで、選択・決定できるように工夫している。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			内容の事後報告、情報共有に努める。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		積極定期に情報提供について、関係機間に働きかける。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		長期休みに、学校と情報交換を行い、一人ひとりの特性や課題などを共有するようにしている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4		保育所や幼稚園と情報を共有できるように努める。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2		家庭との連携を取り、必要な場合に情報提供などを行う。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		4		外部研修などを検討する。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1	兄弟が在籍する児童クラブとの交流を企画している。	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		担当者が出席して、障害児福祉の現状などを報告している。	他の職員への報告を行うようにする。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		電話や送迎時に情報交換をしている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特訓・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		福祉課などから地域の障害者福祉などの説明会を開催する。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に行っている。	定期的に行う必要がある。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		様子を見ながら、本人の意思の確認や保護者の意見などを確認するようにしている。	家庭状況を考えながら、定期的に確認が必要。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		作成時に、説明と同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1	相談があったときには、その都度相談に応じて必要な助言等を行っている。	日ごろの何気ない会話を通して、積極的に様子を聞き取るようにする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	2	夏祭りやクリスマス会などを開催して、保護者同士の交流の場を設けている。	交流の場を定期的に設けることを考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情や質問などがあった場合は、担当職員が対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		定期的にだいご通信を発行し、HPにも写真などを載せている。	保護者が読みやすいツールを工夫していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		職員間で共通理解をはかっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		共通の言葉を工夫するようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		コロナ禍以来地域のボランティアとの交流がないため、感染症などに留意して地域との交流を進めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			保護者への周知を徹底する。訓練にも積極的に取り組む。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	2		職員への周知と、訓練を定期的に行う。救命講習を定期的に開催する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	1		服薬に関する確認と説明書の提示を求める。変更時には再度提示してもらうようとする。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			現在対象者はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	定期的に危険個所などを点検している。	見逃している危険個所はないか、職員一人ひとりが安全管理について意識を持って対応する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1	安全計画の配布をした。	定期的に、家族と取組について確認するようとする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット報告書の記入を勧めるようにしている。聞き取りをして、児発管が報告書の記入をする機会を多くしている。	再発防止について、定期的に情報交換する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	1	回覧など、定期的に学習している。	事例検討をする機会を設ける。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		保護者と話し合って、対応の仕方を検討し、計画に記載している。	行動の変化があった場合は、その都度保護者と話し合って、計画の変更も行う。